

KBF 特別セミナーを開催

PART 1

●テーマ●

「一人で着物をきてみよう」
～女性：小紋と名古屋帯&男性：浴衣と各帯～

今回のセミナーは本校講師・河村シゲル先生の企画で、着付けを学んでライブも楽しんで貰えるようなセミナーという事で開催になりました。講師は、着物着付けの先生でもある花輪直弥氏。また、ギタリストと多才な花輪氏のミニライブを聞くことができたという、一風変わったセミナーだったとおもいます。



6月17日(火)に2号館にて

PART 2

●テーマ●

「コーンロウ＆特殊編込みヘア体験講習」
～学校では教わらない技術教えます～

理容科卒業生「髪人代表」土肥先生によるセミナーは、学生からのアンケート結果を反映しての開催となりました。当日は土肥氏の講演の後に、特殊編込みヘア体験をする事が出来ました。体験は限定50名でしたが、予想をはるかに超える多くの希望者が抽選会を行い(もれた方はゴメンなさい)ました。学校の授業では教わらない特殊技術なので今後もKBFセミナーに是非! 参加して下さい。



9月16日(火)2号館にて



2008年11月16日・17日の両日に「美翔祭2008 ANTITHESIS」が母校にて開催されました。今回は「ネイル」と「セット&メイク」の二部構成にて「KBFセミナー」として参加しました。

第一部
「ネイル」第二部
「セット&メイク」校内コンテスト「匠すと」にて
「KBF賞」を表彰

昨年度も、KBFでは母校で行われる校内コンテスト「匠すと」の「トータルコーディネート部門」にて「KBF賞」を設けて審査・表彰させていただきました。受賞おめでとうございます。



第一回「留学生合同同窓会」を開催



KBFでは、どうしても実現したいと願っていた留学生の同窓会を、2008年6月28日(土)に台湾台北市、ロイヤルホテルにて第一回留学生合同同窓会を各

面のご協力のもと開催することができました。

母校の留学生受け入れは、昭和59年に国際部(2期)を設置以来ビジネス美容科(2期)、留学生科(8期)という歴史を重ね平成6年を最後に留学生受け入れを休止いたしました。

2005年に母校50周年記念事業として、KBFでは2006年6月に第一期生からのOBGと一緒に会した合同同窓会を開催致しましたが、留学生の方々へは、ご案内を差し上げ事ができず、何とか同窓会の実現をとKBF役員一同活動をしておりました。その思いを、在日OBG並びに当時の担任・担当の先生方のご協力を頂きながら2年の準備期間を経て実現する事ができました。

当日は、24年ぶりの再会の方やご家族を伴って台湾各地から参加を頂き、笑いあり涙ありと昔話に花が咲

いたひとときを過ごすことができました。これを契機に2009年11月に母校の「美翔祭」開催時期に合わせて日本での第二回同窓会開催を合言葉に散会となり、また新たな絆を築くことができました。

「留学生合同同窓会」実現に向けて多くの方々のご協力を頂きました事に、役員一同、心より感謝申し上げます。今後もKBFでは卒業生との「絆」を大切に!をテーマに活動を展開してまいりますので、よろしくご支援いただけますよう重ねてお願い致します。

開いていきますので、よろしくご支援いただけますよう重ねてお願い致します。

KBFカード(ETCカード対応)

会員限定特典

- 割引特典がございます。
- 学校窓口にて教材の10%割引。
- KBF主催のセミナーなどの会員割引。
- KBFの会報誌(アヴェニュー)のお届けを致します。
- あなたの結婚式に祝電のサービスを致します。

詳しいお問い合わせ、入会ご希望の方は事務局まで
TEL又はメールにて問い合わせください。
KBF事務局 03-3803-6696(担当 関根)
e mail kbf@kokusai-riyoubiyou.ac.jp
アヴェニューへのご意見ご希望などもお寄せください。



編集長より

「アヴェニュー Vol.18」が製作者の都合にて発刊が遅れることをご了承ください。
今後もKBF「アヴェニュー」を宜しくお願いします。(次号発刊時期等はKBFホームページにてお知らせします)

アヴェニュー編集長：角金

AVENUE

http://www.kokusai-riyoubiyou.ac.jp/kbf/index.html

vol.18



CONTENTS

2

- 新校長から卒業生の皆さんへ
- OMCアジアカップ2008年

3

- 突撃レポート～「理容職場体験」について～(中村理事長)
- KBF総会・幹事会を開催

4

- KBF特別セミナーを開催
- 第一回「留学生合同同窓会」を開催
- KBFからのお知らせ

新校長から卒業生の皆さんへ

2008年10月、第4代校長に就任された鈴木政信先生から皆さんへのメッセージです。

いろいろな良い縁を結んでいくと、良い結果に繋がる

昨日 年10月に校長に就任した鈴木政信です。早くにお会いした方からは、「お祝いの言葉とともに「これから専門学校は大変ですね」と、お気遣い頂きました。確かに日本は少子化の時代に向かえ、専門学校への入学者数も平成4年をピークに、減少傾向にあります。また世界的な経済状況もサブプライム問題、資源問題と低迷する要因が数多く、不透明な経済状況ではあります。

しかし、この状況下でも健闘している企業や教育機関はあります。こんな時代だからこそ「理念」や「信念」を持って生きてゆくことが大切かと思います。国際理容美容専門学校も「教育目標」である職業人としての態度や意識を育むために「競」教育を実践し、周囲に気配りができる資質の高いビューティクリエーターを育成したいと信念を持って、教職員が一丸となって努力してまいります。



OMCアジアカップ2008年

2008年11月12~13日「OMCアジアカップ2008年」が開催され、母校の卒業生であり、現理容科職員の佐野吾一先生が、日本代表として出場されました。

佐野「精神が肉体を越えた瞬間でした。」



2008年11月12・13日にOMCアジアカップ2008年が開催されました。本校の佐野吾一先生がテクニカルカテゴリー、メンズシニア部門総合2位、クリエイティブ部門優勝(金メダル)、クラシカル部門3位(銅メダル)という輝かしい成績を収めました。私(石山)が「いろいろ積もる話」を聞いてみました。

◆たくさんのメダル獲得!おめでとうございます。大会にまつわる熱いエピソードを聞かせてください。まず、競技を始めたきっかけを教えてください。

佐野: 理容師になりたての20年前にポンバージュセット(ウィッグ)で出場し、最高で優秀賞を取りました。その当初から、全国優勝を夢見ましたが、営業に追われる日々で一度断念しました。それから約10年後、将来の理容師を目指す子供たちに夢を与えるという気持ちで、母校に職員として帰ってきました。まずは学生の見本になろうと思い、もう一度日本一という夢を追いかけようという熱い気持ちが湧いてきました。中でも、第一部門(クラシカルカット・セット)にこだわる理由は、理容技術全ての基礎であります。ゴールが無い競技だからです。いわばF1みたいなものですかね。

◆F1ですか?

佐野: はい。F1は安全かつスピードを争う競技です。また、実際には一般公道を走ることはありましたが、その技術というのは一般的な乗用車に大きく役立てられます。理容業においても、クラシカルスタイルのような人は町

では見かけませんが、その技術はどんなスタイルにおいても大いに役立ちます。10万本の髪の毛の一本一本が決められた場所に定めなければ、スタイルは完成しないからです。

◆確かにF1が一般公道を走ったり、クラシカルスタイルを街で見かけたことはありませんね(笑)。それでは、今までの出場歴を教えてください。

佐野: 最初は2004年の東京大会、2005年東京大会、2006年東京大会、2007年静岡大会優勝、東海北陸大会4位、2008年東海北陸大会4位、そして今回のOMCです。

◆このようなコンテストを続けていく中で特に苦労したことは何ですか?

佐野: 技術においては、10万本の髪の毛の1本1本に魂を込め決められた場所へ定めなければ完成しません。実は練習も含め、今まで1度も納得したことがないんですよ(笑)。逆に言えば、終わらない競技なので、やりがいはとてもあります。

またモデルハントも困難極まりなく、毎日パチンコ店や駅前、大学に通いますが、100人中1人が振り向いてくれればいい方で、その中でも競技に適したモデルはなかなかいません。良さそうな外国人がいても、言葉が通じないと日本人を警戒していて、なかなか協力してくれる人はいませんでしたね(笑)。

技術面以外で言えば、理事長(中村先生)、師匠(田中トシオ先生、能登谷博樹先生)、親、学生、同僚、その他の方々に「絶対に優勝する」と断言してしまったので、そのプレッシャーに打ち勝つのが大変でした。

◆そのプレッシャーはどのように克服したのですか?

佐野: とにかく練習に明け暮れました。師匠のご指導を仰ぎながら、練習が深夜に及ぶことも連日、漫画喫茶で朝まで過ごすこともしばしばありました(笑)。

また、皆の期待を背負うというより、『応援され支えてくれている』という想いに変えて臨んだのも大きかったと思います。実は、出発前体調を崩してしまいましたが、皆の期待と応援を糧に乗り越えられたのも事実

です。正に『精神が肉体を越えた瞬間』でした。

◆そのような応援を受けながら、優勝した瞬間はどのような気持ちでしたか?

佐野: 残念ながら、英語で名前(ジョーイチサーノー)と呼ばれたので、まさか自分だと私は思っていませんでした(笑)。その後に『ジャパン!』と呼ばれたので、その瞬間に初めて自分だと実感して、モデルとともに大きな声で叫びました。金メダルを取った喜びと、日本のメンツを守れた安堵感が同時に押し寄せてきました。正直、「これで開放される」という気持ちも多少ありました。本当にこの競技が好きなんだなとも実感できました。色々な国の選手も声をかけてくれて、言葉は通じませんが、身振り手振りから、「今度は世界で会おう」と言っているように感じました。「技術は世界を越える、これがオリンピックの感覚なのかな」と感じました。

◆最後に今後の抱負を教えてください。

佐野: 来年こそはもう一度全国大会に出場し、優勝して世界の舞台に立ちたいです。また、この技術を通して、理容の素晴らしさを学生達また一般の方々へ伝えていき、理容業の発展に貢献していきたいです。最後に、応援し最後まで支えてくれた方に本当に感謝しております。ありがとうございます。

佐野先生が難うございました。まさか、学生時代お世話をした佐野先生にこのようなインタビューができるとは思っていませんでした。しかもこのような快挙を(嬉しい)私の恩師として、また先輩として本当に誇りに思っています。先生、いつも輝いていてください。

インタビュー: 石山洋(理容科)

テクニカルカテゴリー・メンズシニア部門…総合2位(銀メダル)

クリエイティブ部門…優勝(金メダル)

クラシカル部門…3位(銅メダル)

突撃レポート

前号でも紹介した「理容職場体験」について、提案発起人である中村先生(理事長)に詳しくお聞きしたくて!また、また!!「突撃レポート」です!アヴェニューVOL.17で掲載した「理容職場体験」の実現に至るまでの成り行きと「どうして?」を聞くために中村先生を訪ねました。

今現在の理容を見て体験してもらうことが大切なんです。



前回、イラストや解説などで詳しく紹介されたのは紙面を見たので知っています。掲載ありがとうございます。「理容職場体験」の実施には皆さんご存知のように、

昨今とくに理容学校・業界ともに理容師を志す人が大変減少している状況です。学校としても何もしないでいるわけにはいかないし、業界自体の衰退も見ぬふりは出来ません。学校と業界とが一緒にになって理容業を盛りたてパックアップしたいというところから企画されたのです。

現在は、都内の専修学校が窓口となり東京都理容組合の加盟店と協力して「理容職場体験」の希望者を各サロンに紹介しています。

「理容職場体験」を通じて、今現在の理容を見て体験してもらうことが大切なんです。ぐんに中学校・高校の学生には、見て・体験して知つてもううで理容業への関心を持つてもらひたい是非!将来的に職業として理容師を志してください。

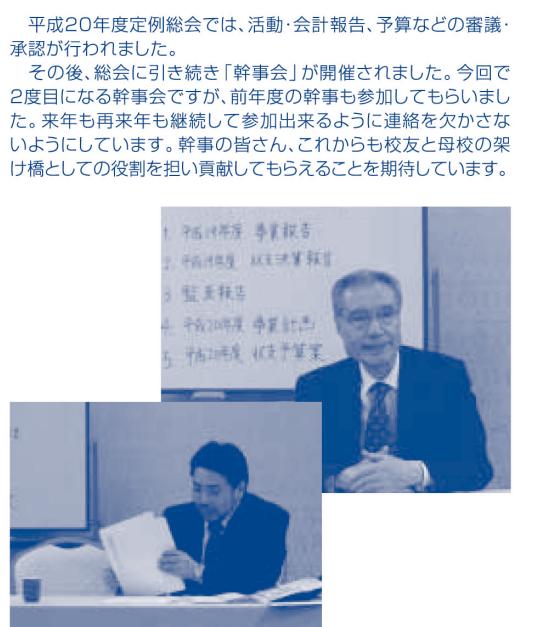
専修学校には今まで築き上げてきた学生・学校(中学・高校など)との太い縁があり、「理容職場体験」を推奨する機会のあることが強みだとおもいます。「理容職場体験」の詳く聞いて感じたのは「職育(職業を育成する)」だと、今だから必要な事なんだと…。

アヴェニュー編集長:角金



KBF総会・幹事会を開催

2008年5月20日(火)日暮里、ホテルラングウッドにて「KBF総会・幹事会」が開催されました。



今年度の幹事会の皆さん

前年度の幹事会の皆さん